

**BPA** 一般社団法人  
バイオマス発電事業者協会

## 2023 年度事業活動計画

## 一般社団法人バイオマス発電事業者協会

### 2023 年度事業活動計画

#### 1. 2023 年度事業活動方針

2023 年度より年会費改訂をさせていただき、本年度より開始されるライフサイクル GHG 排出基準適用に関する制度への対応や、今後議論が進むと考えられます木質バイオマス燃料に関する持続可能性確認の強化への対応、また、猶予期限が最終年となりました PKS 持続可能性確認の第三者認証取得に関する対応に注力して参ります。

また、新型コロナ感染症に関しては一応の終息気配を見せてきた中、集合形式の会議を再開し、部会会議・勉強会の活動を活発化させ、事業者のみなさまの事業環境の整備のため

- 1) 業界意見の政策への反映
- 2) 持続可能な燃料の安定調達および、発電所安定運営のための制度整備
- 3) 2050 年カーボン・ニュートラルに向けたビジョンの提示
- 4) 林業、バイオマス発電事業の成長産業化のための働きかけ
- 5) 他業界との連携

と言った点に力を入れた協会活動を行って参りたいと考えております。

#### <事業活動計画>

##### ①部会会議開催および勉強会開催

###### <発電部会>

1)燃料調達、2)発電関連技術、3) 運転・保守等 を議題とした部会会議、勉強会を隔月で実施

###### ● 部会会議

政策部会、発電部会の2つ大部会のもとに燃料部会、運転・技術部会等の小部会を設け、会員相互の課題の共有と解決案の討議、情報共有、意見交換の場を提供

###### ● 勉強会

部会会議で議論され得られたベスト・プラクティスを会員、その他業界関係者に

共有するための情報共有会を設ける(隔月実施)

また、会員からの要望に応じ、『新製品』、『新技術』等に関する勉強会も開催予定

※各回の議題については、決定次第案内予定

<政策部会>

1) 各種委員会への対応および業界意見のガイドラインへの反映

● バイオマス持続可能性 WG

① PKS 第三者認証制度

- ・ ARC、ISPO の追加承認への働きかけ
- ・ 会員企業および審査機関等に対する早期認証取得に向けた啓蒙
- ・ 認証取得状況の共有と経過措置期間延長の要望

② LC-GHG 算定方法

- ・ 既認定案件への遡及適用回避(適用要件の明確化)
- ・ 情報開示・報告、規定値策定、確認手段に関する意見発信
- ・ 他業界(燃料サプライヤー、輸送関係 等)への GHG 削減の働きかけと削減状況の積極的な発信
- ・ 主に既認定案件向け。規定値 + 自己計算の組み合わせで計算できるツールの開発。  
(年次で情報更新。開示報告書の出力まで一括で対応できるものを想定)

③ 木質系燃料の持続可能性確認に対する対応

- ・ "FIT/FIP において GHG 確認が可能な第三者認証として認められている SBP に関し、コンサルティングを利用し、持続可能性の証明手段としての妥当性を検証する。また GGL に関しても同様に検証する。

<1> FIT 制度における持続可能性要件に基づく各種認証スキームの比較分析

- 木質バイオマスの持続可能性の証明方法として、FSC や PEFC といった森林認証制度と、SBP や GGL といったバイオマス認証制度を比較し、各認証の基準を整理する。
- その際、とくに原料生産に関する要求事項や確認主体を明らかにする。  
(背景：林野庁は SBP-compliant 材について、原料はペレット工場が自主 DD する点に課題認識を有している。)
- 持続可能性 WG で整理された FIT が求める持続可能性基準の各項目に対し、以下の国際上述の各認証の適合状況を横ぐしで比較する。
- 比較分析結果を踏まえて、FIT 制度における輸入木質バイオマスの持続可能性の担保のあり方について考察、提案する。

※調査対象：FSC, PEFC, SBP, GGL, (SFI)

<2>各種認証スキーム適用に際しての課題の整理

- 上記<1>で分析した認証に関して、木質バイオマス認証として用いる場合に指摘されている課題点を海外文献も含めて整理する。

<3> EU 再生可能エネルギー指令における木質バイオマスの持続可能性担保の仕組みに関する情報収集・整理

- EU REDII における木質バイオマスの持続可能性基準、および認証スキームの承認状況を整理する。

上記、検討結果を踏まえて、持続可能性の証明手段として当該認証の使用が可能になるよう、当局に対して働きかけを行う。

④ 第三者認証制度の新規燃料への早期対応への働きかけ

- ・ GGL、ISCC 等の FIT/FIP 承認済認証制度に対し、2023 年度より加わった新燃料への早期対応の働きかけを行う。

● 調達価格等算定委員会

- ① 入札制度、地域活用要件、運転開始期限 等の適正化
- ② FIP 制度への対応についての検討

● 系統 WG

- ① 適切な最低出力値設定への働きかけ
- ② バイオマス発電が対応可能なノンファーム接続に伴う出力制御機器仕様設定への働きかけ

2) 2050 ビジョン策定

● バイオマス発電の 2050 年カーボン・ニュートラル達成への貢献策

- ・ 発表済導入目標量達成のための具体案の策定、関係業界との連携、必要な支援の要請

3) 輸入材レピュテーション

- 協会 HP による意見表明の継続(ご認識の払拭)
- 偏向報道防止のための主要新聞、雑誌等との関係構築の継続
- 燃料調達に関する BPA ステートメントの作成(専門家の確認、コンサルの利用を想定。)

4) エネルギーの森

● 国産材増加策への提言、国産材燃料の成長産業化

- ・ 早生樹燃料開発の支援/啓蒙活動
- ・ 広葉樹の燃料利用への支援
- ・ 国産材燃料の安定的・効率的な供給・利用システム構築への協力

## 5) その他

### ● FIT/FIP 制度に係る申請/届出プロセスの改善

- ・ 変更認定申請および事前変更届出に関する運用の明確化、および手続き期間の短縮化  
実現のための関係省庁への働きかけ

### ② 講演会開催

各分野における有識者および専門家による講演会を開催する(年 3 回予定)

テーマは会員からの希望やタイムリーな話題等を考慮し決定予定

※ 実施スケジュールおよび各回のテーマについては、決定次第当 HP で発表予定

※ 会員以外の方も参加可能(有料)

### ③ セミナー/コンサルテーション(有料)

今後バイオマス発電事業に参画を予定する事業者を対象とした、個別の事業計画に対するコンサルテーションの提供

### ④ 他業種連絡会議

事業計画が確実に実施されるため、金融(全銀連)、他再エネ団体(JWBA、JORA、再エネ長期安定電源推進協議会 etc.)との交流の継続

### ⑤ 政策提言

政策部会の議論をもとに、資源エネルギー庁、林野庁、環境省等の関係機関に対し、業界としての事業運営上の政策提言を行う

また、新エネルギー財団 新エネルギー産業会議 バイオマス委員会の委員として

新エネルギーの導入促進に関する提言作成に参加

### ⑥ 行政会議

関係省庁からのヒアリングに対応し、必要に応じ会員に情報提供

『調達価格等算定委員会』、『再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会』等で定期された問題についての業界としての意見を集約し提起

また、パブリック・コメントへの対応の際には会員からの意見を募り、幅広い業界の意見として提案

### ⑦ 情報提供

- 1) 部会会議等の機会を利用した関係政策各委員会等の状況および、協会の発表意見内容の報告
- 2) 業界に関するニュース、関係法令、市況、イベント情報および協会実施の部会会議、勉強会で得られた有益な情報を常に会員向けに発信
- 3) 会員専用 HP の開設による、情報共有機能の強化

● 年間活動予定表

	2023年										2024年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
定期総会		29											
理事会	25	29	26	31	28	25	30	27	18	15	26	25	
部会会議・勉強会			26		28		30		18		26		
政策部会	24	29	26	31	28	25	30	27	18	15	26	25	
講演会		29				25				15			
研究報告会												予	
情報提供	随時												